



全国の注目を集める遺跡 —有珠モシリ遺跡—の発掘調査

伊達市噴火湾文化研究所 永 谷 幸 人

1. 日本中から注目されている遺跡

伊達市には全国的に有名な遺跡がいくつもあります。その中の一つである、史跡北黄金貝塚が世界文化遺産に推薦されることが決定しましたが、市内には、この北黄金貝塚と同じくらい全国的に注目されている遺跡があることをご存知でしょうか？

それが、有珠モシリ遺跡です。この遺跡は、噴火湾の北東岸、洞爺湖町との境付近に位置する遺跡で、縄文時代の終わりから縄文時代（約2,000年前）にかけての貝塚と多くの墓が見つかっています。

遺跡から出土した装飾豊かな鈴や、クマとクジラを彫刻した儀式用のスプーン、沖縄付近の海でしか採れないイモガイでできた腕輪などが、縄文文化の豊かな暮らしや約2,000年前の長距離交流の存在を示す考古学上の大発見として、全国的に注目を集めました。これらの遺物は、国の重要文化財に指定され、現在、だて歴史文化ミュージアムで保管・展示されています。

有珠モシリ遺跡の注目度の高さは、市教育委員会に寄せられる資料貸出や写真掲載の許可申請の数からも明らかで、年間数十件ある申請の半数以上が有珠モシリ遺跡に関するものです。2019年多くの書籍に取り上げられたほか、沖縄のテレビ番組で放送されるなど、日本中から大注目されている遺跡なのです。

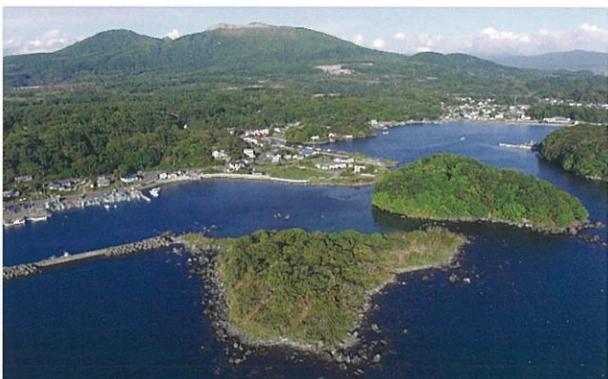


イモガイ製の腕輪（【重要文化財】）

2. 有珠モシリ遺跡の立地

有珠湾の湾口に位置する三角形の小島（面積約10,000m²）が有珠モシリ遺跡です。この小島は、有珠山が山崩れを起こした際の土砂や岩石によってできた丘陵（流れ山）の先端が、海水の浸食によって削られてできたと考えられています。

通常は陸地から約150m離れていますが、干潮時には陸続きとなります（私有地のため、無断での立入りはご遠慮ください）。島は全体的に低く平坦で、最も高い場所でも標高は約8mしかありません。地表には有珠山から流れてきた巨石が点在し、独特な景観を形成しています。



有珠モシリ遺跡全景（手前の島）



島内の様子（窪みが札医大調査区の跡）

3. 調査の経緯と目的

有珠モシリ遺跡では1985～1989年まで札幌医科大学によって発掘調査が実施されました。重要文化財に指定されているのは、この時に出土したも

のです。また、墓から出土した古人骨の研究では、北海道の人の成り立ちの解明に大きく貢献し、人類学的な研究の基礎資料となっています。

しかし、1980年代の調査が人類学的な研究に重点を置いたものであったこともあり、遺跡の範囲や遺構の分布、文化的な内容などの考古学的な情報は十分に把握されていませんでした。そこで、噴火湾文化研究所では、2018年度から科学研修費助成事業の一環として、東北芸術工科大学（青野友哉准教授）と共同で本遺跡の調査を行うこととしました。

2018年に島全体の測量調査を実施し、2019年には遺物や遺構の分布を調べるための調査（ $1 \times 1\text{m}$ の調査区を4カ所発掘）と、貝塚と墓を調べるために札医大調査区の再発掘調査（約 6 m^2 ）を実施しました。

4. 調査成果と今後の展望

今回の発掘調査では、標高5m付近の広い範囲で縄文晩期から続縄文前半期の土器が出土しました。このことから、島の中央部の平坦面一帯が利用されていたと考えられます。

札医大調査区の再発掘では、貝殻に混じって若年や成人の人骨が散乱して出土したことから、「改葬」が行われていたと推測されます。出土品としては、ミュージアムで展示しているものとほとんど同じ形の鹿角製の銛など、続縄文文化の副葬品とみられる遺物が出土しました。また、本州以南に棲息するベンケイガイ製の貝輪や、北海道には棲息しないイノシシの臼歯が出土したことから、本州との交流が示されました。さらに、赤色が特徴的な角閃石安山岩を用いた墓が見つかるなど、今後の調査への期待が高まる成果を上げることができました。

2020年には、今回見つかった墓の詳細を調べるとともに、有珠モシリの続縄文人が何を食べていたのか、人の移動や交流はどのようなものだったのか、イノシシは家畜化されていたのかなどについて、発掘調査や科学分析を行って解明していきたいと考えています。今後の調査にご期待ください。

本稿は、JSPS科研費18H00749「狩猟採集文化

と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究」（基盤研究（B）研究代表者：青野友哉）の成果の一部です。



札医大調査区の発掘調査（中央の赤い石の下が墓）



装飾が施された銛の出土状況



調査風景



？ 続縄文時代とは

本州以南では縄文時代が終わると弥生時代になりますが、北海道の歴史はこれとは異なっています。稲作（農耕）文化が九州から四国、本州の北部まで広がったのに対して、北海道では縄文時代と同じように生活の基礎を狩猟・漁労・採集とした文化が続いていました。なかでも海の資源の利用が活発で、装飾豊かな漁労具が多数出土しています。また、本州やサハリンなど北海道島外の文化との交流により様々な物を取り入れつつ、独自で豊かな縄文文化を生み出したのです。